

戦後レジームからの脱却 2

新聞・テレビは真実を報道しない

真実とわかっていながら、自分たちのイデオロギーのために報道しない場合、あるいは、本当に「真実」を理解する努力を怠って真実を報道できない場合、また真実を理解できない場合とがある。AP 電や CNN などの情報を確かめることなく垂れ流している可能性もある。

大東亜戦争や、その直前の 2・26 事件や 5・15 事件などについて、真実を報道しないから、いつの間にか国民運動のような減刑嘆願が主となり、新聞は国民に迎合するようになる。

戦後、いつの間にか、まったく正反対の論調になるのだが、これには、WGIP (War Guilt Information Program ; 戦争犯罪情報作戦) に則って、反政府の立場を連合国 (事実上は米国) から指示されて、70 年近く経っているのに後生大事に遵守している。これは NHK も同じ。米国の方針に忠実であるが、戦争は、どちらかが一方的にいいとか悪いとかいうものではない。しかし原爆を落としたのもいわゆる東京裁判でも米国の国際法違反であり、それを糊塗するために WGIP を急遽つくりあげたものである。つまりは「洗脳」であり、端的な例は、朝日新聞と産経新聞とを比較すればよくわかる。・・・この忙しいのに、それを仕事としている人以外では時間がないから、週刊誌や雑誌を読めば、きちんとまとめて説明してくれる。

朝日新聞は、安倍首相が嫌いで、ことに「戦後レジーム (体制) からの脱却」といえば、朝日新聞が数十年かけてつくりあげた体制を全否定するものだからである。(されても仕方がないようなことばかりを主張してきたからな。) 産経の古森義久氏がいう、「朝日のいうところの反対のことをしていたら、日本はうまく戦争の傷から回復できた」とまで言う。

代表は、朝日新聞だが、毎日新聞もええ勝負やし、テレビでいえば、TBS、NHK などである。ことにテレビでいうなら NHK の罪は重い。なぜなら、全国ネットで、嘘をまき散らすからである。それでいて聴取料を払えとは、片腹痛い。

安倍さんにもアキレス腱がある。能天気な奥さんの存在で、できれば座敷牢に幽閉したいだろうな。森友学園の問題も、彼女がでてきたから野党の格好の餌食になり揉めた。あれはまあ詐欺みたいなものだから、安倍さんの知らないところでの話だったのだが。

それはともかく、新聞やテレビの報道の偏向は目に余るものがある。偏向だけならまだはじめから構えておられるからかもしれませんが、切り札の「捏造」という手があるからなあ。

朝日には前歴が山ほどある。「地上の楽園・北朝鮮」で帰国した人が数万人単位で殺された。国民総背番号制とはしゃいで、それに便乗した町はガタガタになったが、いずれも謝罪なし。箕面市など、裁判にまでなって、朝日の言う通りの判決がでて、のちに判事が自殺した。死ぬくらいなら、判決をまともにしていけばいいじゃないか。・・・新聞の役割は、事実を報道することだというのが・・・それならアホな大学教授に紙面を埋めさせるな！ これ

には深謀遠慮があつて、仮に間違つていても、教授の意見だから朝日は知らぬ顔をするし、責任もとらないですむ。・・・また、事実をろくに調べもせずに教授も日本を貶める。毒ガスだ、といいながら、毒ガスが立ち上っていくか？一橋大学のフジワラ教授。お前の給料は、だれが払つてゐるねん。

いくつか偏向ないし捏造の例をあげる。

石原慎太郎都知事が、「日韓合併を100%正当化するつもりはない。」といったのに、テレビでは語尾をあやふやにして、テロップを流す。曰く、「100%正当化するつもりだ。」あきらかな捏造である。TBSですが。

1年間結局なにもしなかった都民ファーストの都知事が議会に行ったとき、自民党のボスといわれる人と握手をしなかった映像がながれる。これもTBSのひるおび！で、そのことの有識者でも何でもないゴミのようなコメンテーターが「握手くらいすればいいのに・・・」・・・2～3日して「実際には握手をしていました」と訂正と詫びを言うだけで映像は流さないから、普通の視聴者には何のことかわからない。この手が使えるなら、訂正する必要がないじゃないですか。最低限の良心てか。嗤わせるな！

青山繁晴議員が「獣医学部新設と天下り問題が密接に結びついている」と質問をすると、NHKがテロップで、「獣医学部新設と天下りを結びつけようとするのはおかしい」。これでは、青山さんがこう言ったようにみえる。わざと曲解させようとする。・・・そう言ったのは前川某で、こいつは叩けば何かでそんな輩で、当時の文部大臣の義兄で、家業は学校関係に物品を納入する仕事だという。次官になったのも、家業の仕事にも何らかの便宜をはかったかもしれない、と思う人がいてもおかしくない、と（前川に言わせると）痛くもない腹をさぐられる。これは政治屋も同じで、安倍さんと加計さんが同期の親友でゴルフ仲間だから疑われた、というより獣医学会のコソコソ動くのがいて、（次回実名をだします。なぜ勿体ぶるかといえば、Will9月号には実名が書かれていないから。）李下の冠・瓜田の靴で、安倍さんは、公私混同を嫌う人であり、獣医学会も安倍さんに触手を伸ばすわけにいなかったから、石破さん以下多くの政治屋に献金して、獣医学部の新設を阻止しようとする。ボクなどは、余計に安倍さんの関与がなかった証拠みたいなものだと思っている。安倍側近が忖度した可能性はゼロではないが、時期が違いすぎる。（この忖度という言葉が今回初めて耳にして、ひとつ賢くなりました、という芸人がいた。）後述するように、元愛媛県知事加戸守行氏の談話には、ちょっと感動した。なかなかの人物で、誠実さがよく現れている。「加計ありき」も「政治が事務を歪めた」などという言いがかりにも、はっきりと「歪めたではなく、正された」というべきだ、と述べておられる立派な人である。そのような人の談話は、安倍憎しのメディアからみれば邪魔にしかならないから、報道しない。

日テレの話。安倍さんが東京都議選の応援演説に行った。すると一般の人が入れないような場所に反安倍の連中がいてヤジと怒号で、ほかの人が聞きたいと思つてもきこえないく

らいに騒がしい。大半の人は聞く姿勢でいるのに、この、ごく一部の連中がテレビ・カメラに近いから、よく映るし、ヤジをとばして騒がしくする。意図的だろうが、その他のほとんどの人のことを映さない。安倍さんが、「このように選挙のためにはなんでもするような勢力に負けるわけにはいかない」と当然ながら言う。・・・すると「選挙の為だったら、なんでもする」と報道する。まったく違う次元の話にすりかわっている。これを知らずに報道だけなら「国民をバカにしているのか」になるのは当然で、それがテレビ局の狙いである。蚊のCMではないが、「卑怯だろう?!」・・・もともと嗤ったのが、森友の理事長がTBSと一緒にタクシーで乗り付け、メモを渡された。で、時々これをみながらヤジをとばしていたという。こんなものは、たとえばNHKなどが、はっきりと「状況が違っているのを映像とともに放映すれば一目瞭然、嘘とわかるのに、そうしない。

こういう新聞やテレビの偽報道は山とあるに違いない。トランプがでてきてからは、「フェイク・ニュース」と呼んでいるようだ。「フェイク・ニュースの見分け方」を著した烏賀陽弘道氏によれば、例えば日本会議＝安倍政権というのがあるそうで、日本会議について調査し、それに関する著書も何冊か読み比べたが、そういう**事実**は認められなかった、という話がある。朝日新聞などは、事実があろうがなかろうが、印象だけは読者が「ある」と錯覚しやすいように書く。悪質な印象操作である。そういう「嘘は書いていないが、本当のことも言っていない。」ことがほとんどになってしまう。

メディアの記者が自分の意見を述べることに就いてはボクは反対しないが、**事実に基づいた意見を述べるべき**である。

新聞でもテレビでも、記者の仕事に対する職業倫理が荒廃している、あるいは頹廃している、という。

烏賀陽氏が米国の国際関係学の大学院で、教授が最初に「国際政治というのは、事実ではなく認識で動く。」大衆は事実や真実が何か気にしていない。認識の形成に成功すれば政治は動く、ともいう。

これをメディアは利用している。だから、朝日の「加計ありき・・・疑念消えず」と根拠を示さずに印象操作をしようとする。うす汚い！ しかも卑怯でもある。

テロ特措法も朝日や毎日では「共謀罪」に変身する。読売、産経は「テロ等準備罪」を使う。明らかにニュアンスが異なる。前者は、あたかも戦前の「讒謗律」の復活を匂わせる。

ボクはいろいろ好き嫌いが激しいのだが、屋山太郎さんの雰囲気が好きで、Will9月号で対談されている。その中に、朝日新聞編集委員の上丸洋一が「その勝負に勝てないと思った人達だけが、論理の敗北を認めずに感覚的、情緒的な言葉による『捨てゼリフ』で糊塗しようとする。」(註；これは自らへの戒めの言葉か、あるいはニュースステーションの久米某とか古館某などがよく使っていた手のことだろうと思っていた。しかし)これは保守系雑誌の言葉を揶揄したもので、その雑誌のタイトルが

「朝日はなぜかくも反日・左翼の新聞になったのか」

「中国に尻尾を振る朝日とポチ政治家の大罪」

屋山氏のセリフが、「なんにも間違っていないじゃないか（笑）」

別の所で、「どうしてそこまで左派リベラル（メディア）が安倍政権をつぶしたがるのかを考えると、やっぱり結論はひとつ。安倍政権が続けば、日本はどこに出しても恥ずかしくない『普通の国』になる。（註；世界中で自衛隊＝軍隊と現在でも判断されているのだが、名実ともにみとめられるようになる。）彼らはそれが許せないんだ。（註；・・・何をぬかしやがる！あれだけ世話になっていながら。）

前川某について、「恥ずかしげもなく『民情を視察するためだった』』と言いつたでしょう？ ボクはかつて、財務官僚の口から同じセリフを聞きました。ノーパンしゃぶしゃぶ事件で、接待が規制されたとき、彼らはなんとやったか。『これじゃあ、民情に疎くなる』と嘯いたんです。」

現在の倒閣ムーブメントは、従来の立場を脅かされている左派リベラルの新聞テレビと、思いあがった一部官僚が手を組んで仕掛けているとみるべきでしょう。」・・・ネッ、ファンになるでしょう。それも独特の雰囲気です。

・・・これで国が亡んだら、しゃぶしゃぶも風俗もなくなってしまふ。本末転倒になる。

以下、当事者である元愛媛県知事の加戸守行氏の平成 29 年 7 月 10 日参院の閉会中審査から「歪められた行政が正された」を一部、（無断で）引用させてもらう。（註；神憑かっているかどうか、8 月 30 日の NHK で、全国で猖獗しているマダニが媒介する SFTS が、飼い猫から感染する、あるいは人畜共通感染症の疑いまででてきたことをまとめた番組を放映したが、愛媛県はもっともその頻度が高い県だと報道した。その日のためにも、愛媛県あるいは今治市でもいいが、獣医学部の新設が喫緊の課題になっている。SFTS とは、Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome 重症熱性血小板減少症候群のことで、致死率 20%を超える難病である。診断も治療もまだ確立されていない）

加戸氏はあいさつと感謝のあと、「10 年前に愛媛県知事として、今治に獣医学部の誘致を構造改革特区（註；これをつくったのは小泉純一郎）の名のもとにしていたのですが、当時はハナもひっかけてもらえなかったこの問題が、こんなに大きな関心を 10 年後に持っていていただいていることに、不思議な感じがいたします。

当時愛媛県知事として、県民の生命・身体・財産、畜産業の振興、食品衛生、その他で一番苦労したのが、鳥インフルエンザ、あるいは口蹄疫の四国への上陸の阻止、あるいは BSE（註；狂牛病。ヒトではクロイツフェルト・ヤコブ病に相当する。）のよもやの波及の阻止。

四国という小さな島だが、こういった感染症対策として、一番防御が可能な地域という意識もあったし、そしてアメリカがこの問題に狂牛病の体験を受けて、先陣を切って国策として、これからはライフサイエンスと、感染症対策をベースとした、獣医学という教育の充実ということで、大幅な獣医学部の入学者の増加、そして 3 つの獣医科大学の新設という形

で懸命に取り組んでいる姿を横で見ながら、なんと日本は関心を持っていただけない国なんだ、と。

10年前に、愛媛県民と今治市民の夢と希望と関心を託してチャレンジしました。厚い岩盤規制ではね返され、はね返され、やっと国家戦略特区という枠のなかで実現をみるようになった今、本当に喜んでいる。)先程の(前川某の)「行政が歪められた」という発言は、私に言わせると、少なくとも獣医学部の問題で強烈的な岩盤規制のために、10年間我慢させられてきた岩盤にドリルで、国家戦略特区が孔を開けてくれた。ということで、「歪められた行政が正された」というのが正しい発言ではないかなと、私は思う。



特区の申請をしてから、何回も門前払いを食らった。いろいろな方策を模索したが、一番強い反対は、日本獣医師会でした。当時、直接接触がなかったけれども、ホームページでは専務理事が、今治の獣医学部新設に関して、鉄壁の論陣を張っていた。なかでも、要するに養成はちゃんとするから、余分なことをするな、というのが基本です。

当時から私が疑問におもったのは、獣医師の数は「箱根の関所から東」は80数%、場合によっては90%近くがそちらです。

空白区は四国だ。獣医師が確保できない。県知事としていろいろ対応しても、たとえば、地方公務員は競争試験が原則だけれども、獣医師は無試験でもいいから「どうぞ、どうぞ」といっても来てくれない。……(この間、獣医師会は、ごちゃごちゃと屁理屈ばかり。)

大学教授の定員は、10年前と今日とかわらないままで、アメリカは必死にやっているのに、据え置いたままで、新しいのはつくるなど。

今回のケースにしても、多くの獣医学の教官をつくって感染症の対策成り、あるいは動物実験による創薬の研究なりと、幅広い学問をやるスタッフを揃えようと思っても、それにブレーキをかけるというのは、私には理解できない。

それならば、自分たちでこの10年の間に、アメリカに遅れないようにスタッフを揃えないのかと。今のままで置いておいて、今治にはつくるな、作るなど言う。これはあまりにもひどいではないか、というのが私の思いです。

民主党政権になって、対応不可の門前払いから、実現に向けての検討とレベルアップした。私が知事を引退し、自民政権になって、何も動いていない。何もしないで、ただ今治だけブレーキをかける。

それが既得権益の擁護団体かっていう悔しい思いを抱えながら、参ってきました。そして国家戦略特区で取り上げられた。大切なのは、欧米に伍した先端サイエンス、感染症対策『と封じ込め、私たち日本人の生命がかかるこの問題を、欧米に遅れないように獣医師を養成しなければならない。このことに手をくわえないでにおいて「今治はダメ」「加計ありき」はなんでかな。

加計ありきではない。加計学園がたまたま愛媛偏会議員の今治選出の議員と加計学園の事務局長がお友達であったから、この話がつながってきて飛びついた。これも(註;安倍さ

んと加計さんが友達であるのと同じく、友達に頼んだようなこと) お友達だったら、すべてダメなのか。

この10年、たとえば薬学部。入学定員が6000人近く増え、大学の数も2倍近く増えた。

加戸知事は、文部省出身で、30年前には霞が関で仕事をしていた。そのあたりのことを述べ、霞が関の役割とは、少なくとも日本国民にとって時代の潮流の中で、どこが何を求めているのか、それに対応するにはどうすればいいのかを考えることが重要であって、本質の議論がされないままに、閉会中審議で安倍首相まで呼びつけて、変態次官の屁理屈に付き合わされることを嘆く。民進党も政権をとっていたときは助けてくれたのに、天下り斡旋のときには「人間のクズ」とまで呼んだのを、今や「英雄」ともてはやす。安倍おろしに利用しようとする。問題をすりかえる、新聞やテレビの報道に呆れている。加計学園獣医学部の建設にあたっては、些細なことに言いがかり因縁をつける。(註；民主党→民進党はもともとそういう政党だった。)

加戸知事は、29年6月13日、国家戦略会議、諮問会議の民間有識者の会議(加計学園獣医学部新設についてn決定の妥当性を主張した会議)の経過を1時間半にわたるYou Tubeを見て感激した。これがある限り、希望はかなえられた、と。

今まで多くのインタビューをうけたが、都合のいいことはカットされて、加戸さんの言い分を取り上げたメディアは極めてすくなかった。朝日新聞やテレビの報道は、まだ印象操作をしようとしている。恥ずかしいことだ。 2017.08.25.

Will10月号では、さらに真相を、実名をあげて加戸基知事は書かれている。次回、それを中心にまとめる予定です。